

## 介護老人保健施設 白藤苑

熊本市南区白藤5丁目1-1  
TEL 096-358-7200

【開設年月日】1996年12月16日 【定員】①入所：100床 ②通所：100床  
【職員数】56名 【施設設置形態】診療所併設 【協力病院からの距離】4km



所在市町村の最大震度6弱  
× 震源地 ☆ 施設所在地

### 複合型施設ならではの事業所間連携役立つ

#### 1. 発生した被害状況・対応・問題等

入所：白藤苑は4階まで建物があるが、階が上がるごとに揺れが大きい状況であった。揺れも大きく、余震がおさまることもなかったため、精神状態は不安定な方が多く、スタッフも対応に日々追われていた。職員は勤務時間外も業務に入っていた状況。

以下、時系列にて報告する。

〈4月14日（前震21：26）〉

夜勤者・遅出 7人勤務。利用者（3階・4階）：約90人。複合型施設にてあけぼのクリニック深夜・準夜 2人勤務。入院患者（2階）：17人。職員間電話連絡できず、「LINE」にて連絡のやりとり。入所・通所・リハビリ・事務職員及び職員家族が支援にかけつける。

〈4月15日（1：20）〉

3階利用者を1階通所ホールへ誘導。3：00避難終了。エレベーターは自動停止中にて階段にて誘導。4階利用者はそのまま4階にて待機。

〈4月15日（午前中）〉

通所ホールより3階へ戻る。フロアの片付けを行った。

〈4月15～17日提供分まで〉

食事は12時・17時の2回食にて提供。間食できるものは別に準備。

2階入院患者分：外来、3階利用者分：通所リハホール・通所リハのリハビリ室、4階利用者分：外来リハビリ室へ食事提供。厨房から各場所への配膳はエレベーター停止中のため、手渡しによる配達にて対応。各部署からの応援あり。

〈4月16日（本震1：26）〉

14日同様、入所・通所・リハビリ・事務職員及び職員家族が応援。

津波警報が出たため、ご利用者を居室から食堂・廊下

へ誘導。2階（あけぼのクリニック）の患者様が4階へ避難。余震は続いたが、そのまま待機。ご利用者ご家族も4階にて待機される方もいらっしゃった。

〈4月16日（8：00）〉

地震にてフロアの冷蔵庫・居室家具・ステーションの棚などが倒れ生活できない状況。そのため、白藤苑入所の3階・4階利用者、あけぼのクリニックの入院患者様を1階へ避難。今回もエレベーターは自動停止中により階段にて誘導。

〈4月18日〉

通所・向山デイ・リハビリ・事務職員の応援あり。1階に避難はしていたが、通所リハビリ・あけぼのクリニックの外来リハビリ室再開にて、部屋の使用ができないため、関連の特養施設である力合つくし庵へ3・4階利用者全員避難。それに伴い夜勤勤務体制変更。また、職員の応援にて対応。

〈4月18～22日の10時配膳分まで同様の対応〉

白藤苑入所者の方々は、隣にある力合つくし庵へ。白藤苑入所者の方々が力合つくし庵内のどこにいらっしゃるか事前に確認し、それぞれに分かりやすいように、場所毎に食札の色分けを行った。さらに食種の違いに細心の注意を払い、玄関までは配膳車、玄関から先は、職員が直接運び配膳した。

〈4月19～22日〉

3・4階の片付けを行った。

〈4月22日〉

力合つくし庵から白藤苑3・4階へ移動（力合つくし庵デイ再開）。余震が続いているため、日勤帯は向山デイ職員の応援があった。夜間帯に不安があるため、勤務者を5人から6人体制とし、5月10日まで継続。

〈4月25日〉

通常通りの食事時間・回数にて提供。

〈5月11日〉

日勤・夜勤共に通常業務に戻ることができた。

○通所リハビリ

4月15日～4月20日までは、地震の被害もあり、白藤苑の入所の応援、片付けに追われ、休業となる。しかし、一人暮らしの方については、避難所にも行けず、食事も摂れないため、数人はご利用あり。お風呂場の壁が倒れ、大きな穴があき、通常は男女別々で利用ができる風呂場は片方が使えない状況となり、入浴の利用ができなくなった。

そのため、修理が済むまでは、男女の入浴時間帯を制限し調整を行った。

○3階調理実習室

オープン（750kg）・業務用冷凍庫・食器棚2台が倒れた。食器は割れて散乱しており、足の踏み場もないほどであった。

夜中に3階調理実習より水道管破裂したため、エレベーター前と3階フロア全体が水浸しであった。職員はその対応にも追われていた。

#### 2. 支援体制について

当法人の場合、複合型施設で関連の事業所が10事業所以上ある。訪問看護・ヘルパー・居宅支援事業所等は、施設外に出る前の時間の調整を行う等して、食事の配膳の応援があった。

一日を通して、職員間での応援を多数いただくことができた。

また、この周辺は農家の方も多く、近隣の方や職員関連の方からも米・野菜等をいただいた。他にも、関連の業者の方から水やディスポ食器等、たくさんのご支援をいただいた。

透析は1日当たり15t（トン）クラスの水が必要になるため、夜間にもかかわらず、自衛隊に給水にきていただくことができた。

#### 3. 要望や検討してほしいこと

- ・ボランティアの派遣
- ・災害を想定してのライフラインの構築



風呂場の壁が倒れた状況



3階調理実習室食器棚やオープンなどが倒れた状況①



3階調理実習室食器棚やオープンなどが倒れた状況②



書類棚が倒れた状況